

外務省・国際交流基金における コンテンツの海外展開に関する取組について

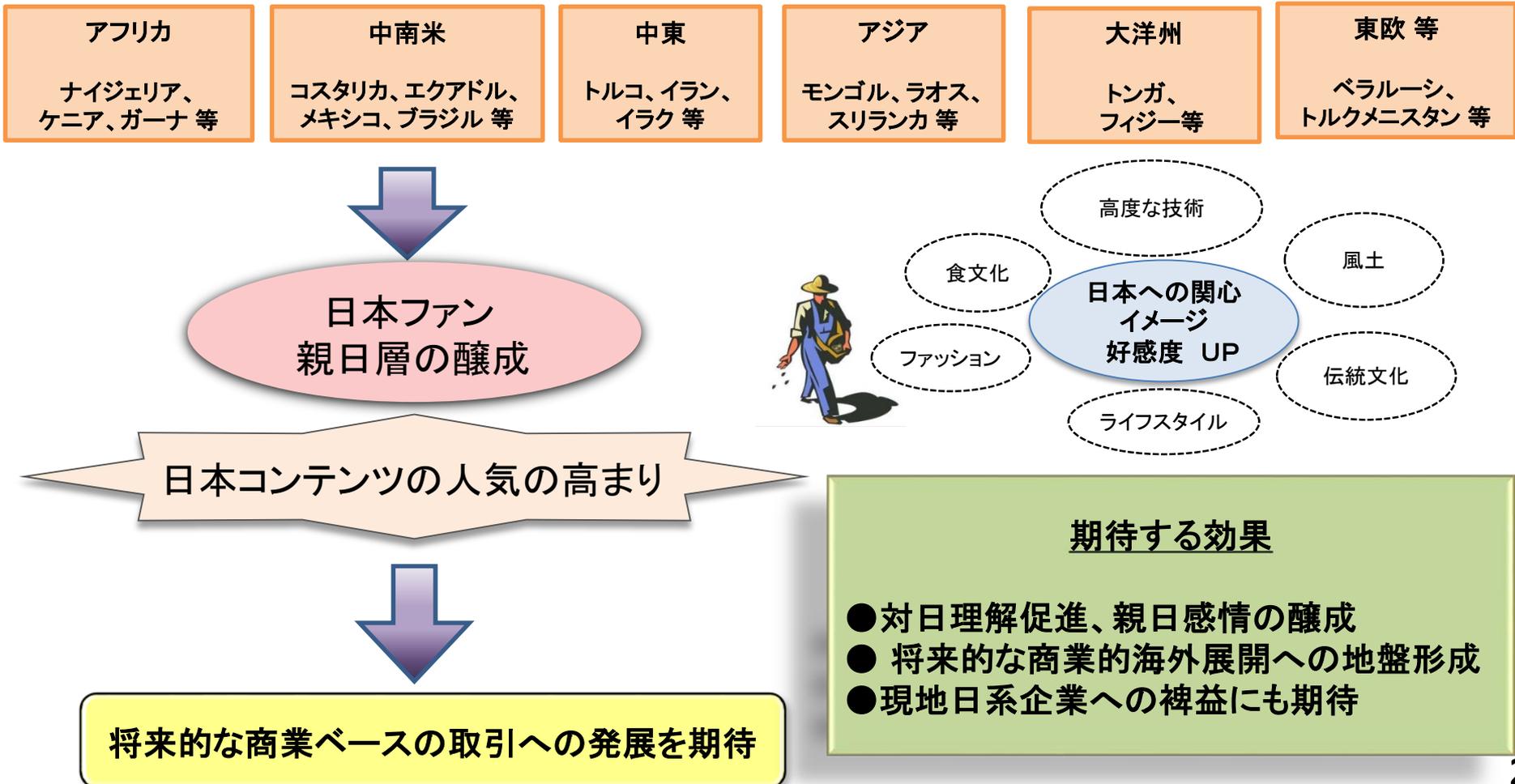


外務省

平成28年2月

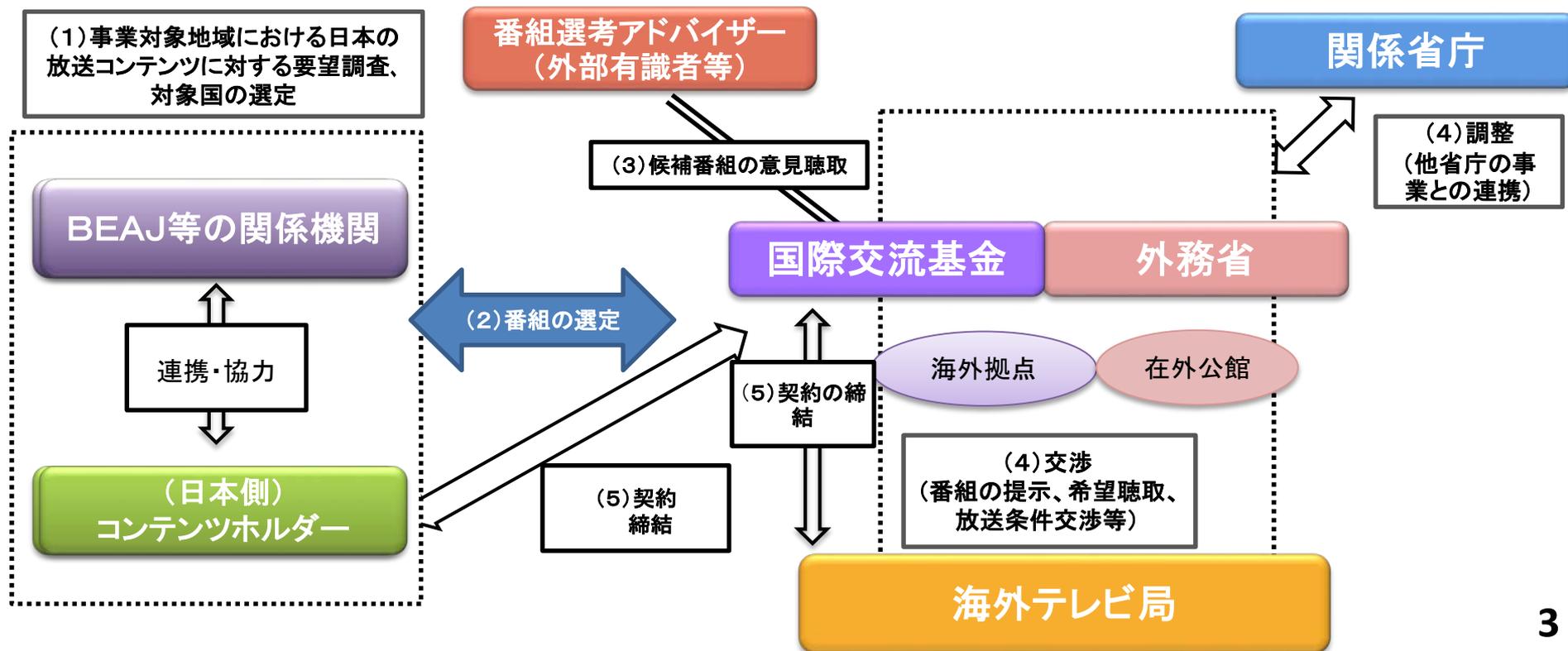
1 地域経済活性化に資する放送コンテンツ等海外展開支援事業概要

国際交流基金の放送コンテンツ紹介事業を通じて、商業ベースでは日本のコンテンツが放送されない国・地域に対し、日本のドラマ、アニメ、バラエティ、映画、ドキュメンタリー、教育番組等の無償提供を集中的に行う。



事業実施の流れ

- (1) 事業対象地域における日本の放送コンテンツに対する要望調査を実施した上で、事業実施対象国を選定
- (2) BEAJ等の関係機関とも連携・協力しつつ、コンテンツホルダーと実施対象国に提供可能な放送コンテンツを選定
- (3) 番組選考アドバイザー(外部有識者等)による選考
- (4) 提供候補として選考された番組を、関係省庁と調整の上、実施対象国のテレビ局へ提示
- (5) 事業対象地域のテレビ局から放送希望のあった番組について、契約を締結 → 提供



これまでの事業実施状況等

- 商業ベースでは日本のコンテンツが放送されない国・地域に対し、日本のドラマ、アニメ、バラエティ、映画、ドキュメンタリー等を無償提供。
- 昨年7月、9月に実施した現地テレビ局への第1次、第2次実施打診の結果、本事業対象地域である中南米・中東・アフリカ・東欧等の約70か国に存在する120局を超えるテレビ局より、約800番組について提供希望があった。そのため、これら約70か国の放送局に対して、アニメ・映画・ドラマなど約330番組を提供予定。

<提供番組例>



ドラマ「花嫁のれん」
(東海テレビ放送)



ドラマ「カーネーション」
(NHK)



(C)おじこうじ・京都アニメーション／岩鷲高校水泳部

アニメ「FREE!」
(朝日放送)

2 「文化のWA（和・環・輪）プロジェクト～知り合うアジア～」概要

平成25年に開催された日・ASEAN特別首脳会議において、安倍総理が表明した「文化のWA（和・環・輪）プロジェクト～知り合うアジア」に基づく各種交流事業を実施（※）

※ 平成25年度補正予算により政府開発援助アジア文化交流強化事業費補助金200億円が一括交付。2020年までの7年間の予算に充当。

国際交流基金内に新設されたアジアセンターを中心として、“日本語パートナーズ”派遣事業、
芸術・文化の双方向交流事業を実施

【事業名】国際交流基金事業（アジア文化交流強化事業）

日本語学習支援事業

平成22年(2010年)までの7年間で3,000人以上の日本人をASEAN諸国の教育現場に派遣し、現地の日本語教師と学習者のパートナーとして、授業の補佐や教室内外での日本語や日本文化の紹介活動等、各国の日本語教育支援を行うと同時に、派遣者自身も現地の言語や文化を学び、相互理解を深め、各国との交流の拡大を図る事業。



芸術・文化の双方向交流事業



JFA×Jリーグ連携サッカー交流
2020年の東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れサッカーを通じた交流を実施。



東京国際映画祭との連携交流事業
アジア映画の紹介、アジア映画人の交流促進、特別賞の授賞等、多面的な交流事業を実施し、相互理解を深め、アジアの才能を世界に発信。



「HANDS! —Hope and Dreams Project!—」
インドネシア、タイ、マレーシア、フィリピン、日本から選抜された若手リーダーが、防災教育に取り組むグループ交流・研修事業。

事業例

■ アジアセンター×東京国際映画祭 アジア映画交流事業（継続中）

アジア最大級の国際映画祭との連携
ーアジアの映画交流プラットフォームを強化・発展

- アジア部門「CROSSCUT ASIA」新設 第一回「魅惑のタイ」特集
- 映画関係者88名を招へい
- 「アジアの未来」部門 国際交流基金アジアセンター特別賞創設
ソト・クォリーカー監督(カンボジア)受賞→ **11の国際映画祭の招待作品となる**



映画・映像 カンボジア 日本

第27回 東京国際映画祭 国際交流基金アジアセンター特別賞受賞監督

2014.10.31

今年受賞された「国際交流基金アジアセンター特別賞受賞監督」はソト・クォリーカー監督に決定しました。本作品は、今年12月にカンボジア国際映画祭のオープニングを飾るほか、シンガポール国際映画祭に出展されることも決まっています。

ソト・クォリーカー監督 『遺されたフィルム』

Sotho Kulikar The Last Reel

